

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報

第 13 号

2019 年度版

島根大学・寧夏大学国際共同研究所



# 目 次

はじめに .....	1
I 学術研究の交流	
I - 1 研究所設立15周年式典の開催 .....	3
I - 2 第17回日中国際学術セミナーの開催 .....	3
I - 3 中日環境法律与政策新進展研討会で関副所長が報告 .....	10
I - 4 一戸副所長が西北農林科技大学を訪問 .....	10
II 日中学術共同調査と共同研究等の成果	
II - 1 研究費の獲得 .....	12
II - 2 著書・論文等 .....	12
III 2019年度研究所活動の記録	
III - 1 研究交流活動	
III - 1 - 1 寧夏農林科学院の研究者が島根県を訪問 .....	17
III - 1 - 2 寧夏大学経済管理学院学生の短期研修受け入れ .....	18
III - 1 - 3 研究所運営に関する協議等 .....	19
III - 2 2019年度その他の交流記録	
III - 2 - 1 伊藤所長らが北方民族大学を訪問 .....	19
III - 2 - 2 研究所設立15周年記念展示会を開催 .....	20
III - 2 - 3 寧夏回族自治区訪問団が島根大学を訪問 .....	21
III - 2 - 4 NPO法人日本寧夏友好交流協会新出事務局長が 寧夏大学外国語学院を訪問 .....	22
III - 2 - 5 寧夏大学・北方民族大学訪問団が島根県を訪問 .....	22
III - 2 - 6 寧夏大学で第一回寧夏大学生日本語スピーチコンテストを開催 .....	23
III - 3 留学生招致に係る活動	
III - 3 - 1 留学支援 .....	24
III - 4 資料・情報の提供	
III - 4 - 1 翻訳、資料収集と提供 .....	24
III - 5 その他の活動等	
III - 5 - 1 寧夏大学外国語学院に対する支援 .....	24
III - 5 - 2 研究所来訪実績 .....	25

IV	研究所の組織	26
	2019年度の運営体制	
	兼任研究員名簿	
	客員研究員名簿	
V	資料その他	
V-1	新聞記事等	28
V-2	国際共同研究所ホームページ・トピックス	29
V-3	事業計画	30
V-4	第4次基本合意書	32

## はじめに

本研究所は今年度で設立15周年を迎えました。2000年頃から当時の国際協力銀行JBIC（現、国際協力機構JICA）の人材育成プログラムにより、中国の各省・自治区へのプロジェクトが次々に実施されてきました。その一環として寧夏回族自治区や寧夏大学と調査研究と学術交流を行っていた島根大学に対して、寧夏に対する適切なプロジェクトの相談が持ち込まれました。

当時、寧夏大学グループと島根大学グループは「退耕還林政策」の地域に及ぼす影響について、現地調査をしている最中でした。JBICによるこのプロジェクトを提案したのは、当時の島根大学副学長の保母武彦先生で、中国側代表者である寧夏大学校長陳育寧先生をはじめ、調査メンバーは、プロジェクトに対して案を出し、壮大な夢を描きはじめました。「教育は国家百年の計」はやや大げさかもしれませんが、低開発地域の発展、豊かさへの挑戦、そして環境と社会経済の両立には、まず人材を育成し、それらの人々が地域社会や産業や行政の要に立ち、大きな目的をもって活動すること、これが不可欠です。大学は人材育成の拠点であり、大学の特徴を最も生かした、人材育成の方法とは何か。

議論の末、共同研究所を設置し、地域に即して社会開発と環境保全に資する共同研究を推進すること、その際に、島根も寧夏も過疎地域、低開発地域という点で地域課題の方向性が類似していること、そして共同研究の中で、大学院生、若手研究者を育て、現地にその成果を波及すること、これらが本研究所の設置の背景であり、運営の目的でした。

この初期の議論の中心の一人に元島根大学学長の北川泉先生がおられました。北川先生は1987年に外国人として初めて開放されたばかりの寧夏回族自治区南部山区の現地に赴き、中国側メンバーと共同研究を実施されています。この共同研究が後の寧夏大学との大学間交流協定締結（1997年）につながり、また島根県と寧夏自治区、松江市と銀川市の交流とも繋がっていきました。いわば寧夏との交流について「最初に井戸を掘った」功労者でもあります。その北川先生が昨年5月にお亡くなりになりました。北川先生のご薫陶を受けた方々は日中両国に大勢おられますが、誠に残念でなりません。心よりご冥福をお祈りいたします。

そして2004年寧夏大学に本研究所組織が作られ、翌2005年には寧夏大学構内に4階建研究施設が建設されました。同時に、両校の間で「寧夏大学・島根大学国際共同研究所設置に関する基本合意書」が締結され、研究体制や研究分野・目的について定められました（2004年）。この基本合意書は5年ごとに更新され、現在では第4次基本合意書（2019年締結）に至っています。この間、地域社会の変化、急速な経済発展の波及、環境問題の深刻化、気候変動など次々と新たな状況が生まれてきました。研究分野や目的の変遷は、地域の社会変動や環境変化を如実に現し、また両校の研究所運営・研究所に要求されることが一層重要になってきたことに連動しています。

また大きな成果としては、両校が中心となり、毎年交互に国際学術セミナーを定期開催しており、その規模も徐々に大きく、多様な分野からの報告がされるようになりました。また、「西部学術ネットワーク」という中国西部の内陸部に位置する大学の研究者がコンソーシアムを形成し、研究所における研究組織がプラットフォームになって、研究領域・分野と対象地域や関係メ

ンバーの地理的広がりも拡大しています。

この間に、日中関係は複雑に変動し、学術的な国際共同研究とはいえ、その都度影響を受けてきたことは否めません。しかし一方で、学生交流、自治体間交流、民間NPO交流も盛んになり、研究だけでなく、人的交流も重層化してきました。今後も交流と共同の枠組みを広げていきたいと思えます。

今年度は15年の節目を迎え、これから先の5年、10年と新たな歴史を刻むために、研究所の在り方、研究テーマ・研究組織・研究運営方法をよりよいものにしていく必要があります。多くの皆様のご協力とご支援を得ながら、一層、共同研究所としての業務を遂行していく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

2020年3月

島根大学・寧夏大学国際共同研究所  
日本側所長 伊藤 勝久

# I 学術研究の交流

## I-1 研究所設立15周年式典の開催

2019年11月3日、島根大学・寧夏大学国際共同研究所の設立15周年の記念式典が開催され、島根大学から荒瀬理事、島根大学・寧夏大学国際共同研究所伊藤所長、吉木企画部長ほか学内関係者計7人が、中国寧夏大学を訪問し、式典に出席した。

1987年に初めて本学教員が寧夏回族自治区に調査に訪れてから約30年もの長い間、両大学は学術交流及び学生交流を継続してきた。2004年に共同研究所の設置に関する基本合意書を締結し、この度設立15周年を迎えた。

式典では、荒瀬理事が研究所の歩みや第4次基本合意書に基づくSDGsに関する日中両国の課題解決に資する学際的研究の推進や中国西部の大学研究ネットワークの中核として、今後も研究所を発展させていきたいと挨拶し、盛大に15周年を祝った。

また、式典に先立ち、11月2日には、島根大学一行は寧夏大学李星書記を表敬訪問するとともに、史金龍副学長と会談した。会談では、荒瀬理事から次世代たたら協創センターの取り組み等について紹介を行い、15周年を機に学生交流や教員交流、学術交流をさらに進め、大学だけでなくそれぞれの地域への貢献を目指すことを確認した。



## I-2 第17回日中国際学術セミナーの開催

2019年11月3日、第17回日中国際学術セミナーが寧夏大学において開催された。今回は寧夏研究所設立15周年のイベントを兼ねて午前中に記念式典が行われ、その後セミナーが開始された。

基調報告2本（日本側：保母武彦顧問、中国側：宋乃平教授）が午前中に行われ、午後は4つの分科会に分かれてセミナーが実施された。第一分科会は自然科学分野で計4本（環境保護、生態建設、畜産）、第二分科会は自然科学でとくに太陽電池の技術開発に関して計6本、第三分科会は社会科学で計6本（一带一路関連、公害問題、過疎対策、環境教育）、および第四分科会は人文科学で計5本（イスラム文化、情報と視覚研究、日本の和食回帰、コミュニケーション研

究、貧困克服)の報告があった。報告数は、基調報告2本、一般報告21本であった。

基調報告では、まず保母顧問より中国の「生態文明」という考え方が現在国際的に推進されているSDGsの目標達成に効果的であることが報告された。また宋乃平教授は20年間の禁牧政策と生態環境の変化を踏まえて、多様な要因が関与する生態系に短期的単一的な目的の人為介入による矛盾を指摘した。

一般報告では4つの分科会に分かれ、報告者、一般聴衆、学生聴衆が参加し、それぞれの分科会で熱心な報告と質疑応答、議論が行われた。

最後に蔵志勇中国側副所長が各分科会の議論を踏まえて総括報告を行い、今回のセミナーの全体テーマ「生態文明と社会発展」に関して、自然科学、社会人文科学からの多様な接近により目的達成に一步近づいたとまとめた。

本セミナーは4つの分科会で実施したことで各専門分野内での議論は十分にできたが、学際的アプローチについて若干課題が残った。





# 第17回国際学術セミナースケジュール

## 一、開催日、場所、メインテーマ

- 1、開催日 2019年11月2日（土）～3日（日）
- 2、場所 寧夏大学賀蘭山校区（国際交流センター、文賀楼）
- 3、メインテーマ
  - ・国際共同研究所設立15周年記念
  - ・セミナーメインテーマ：生態文明と社会発展

## 二、主催等

- 1、主催 寧夏大学、島根大学
- 2、協力部門 寧夏大学对外合作交流処、科学技術処、外国語学院
- 3、実施部門 寧夏大学・島根大学国際共同研究所

## 三、形式及びスケジュール

- 1、セミナー形式 基調報告、分科会報告
- 2、スケジュール

### （1）受付

時間：2019年11月2日（土）～17:00

場所：寧夏大学国際交流センター1階ホール

### （2）セミナー

時間：2019年11月3日（日）

#### ① 記念活動及びセミナー開幕式

時間：08:30-09:15

場所：寧夏大学国際交流センター3階第3会議室

08:30 来賓紹介

08:35 島根大学 荒瀬栄理事 あいさつ

08:50 寧夏大学 史金龙副学長 あいさつ

09:05 寧夏大学・島根大学国際共同研究所中国側顧問 陳育寧教授 来賓あいさつ

#### ② 記念撮影

時間：09:15-09:40

場所：国際交流センター1階ホール

#### ③ セミナー基調報告

時間：09:40-11:40

場所：寧夏大学国際交流センター3階第3セミナー室

報告者：

09:40 島根大学 保母武彦 名誉教授、国際共同研究所日本側顧問

10:40 寧夏大学 宋乃平 教授

12:00-13:30 昼食

④ 分科会

時間：14:00-17:00

場所：第1分科会場 自然科学（一）寧夏大学国際交流センター3階第1会議室

第2分科会場 自然科学（二）寧夏大学国際交流センター3階第4会議室

第3分科会場 社会科学 寧夏大学文賀楼4階報告庁

第4分科会場 人文科学 寧夏大学文賀楼3階会議室

⑤ セミナー総括

時間：17:00-17:15

場所：第3分科会場 寧夏大学文賀楼4階報告庁

総括：王鋒、司会：蔵志勇

## 基調報告内容

11月3日（日）

テーマ：生態文明と社会発展			
場所：寧夏大学国際交流センター 3階第3会議室 通訳：郭迎麗、王穎			
時 間	報告者	所属/職名	報告テーマ
9:40-10:40	保母武彦	島根大学 名誉教授	SDGsを牽引する 中国の「生態文明」に学ぶ
10:40-11:40	宋乃平	寧夏大学 教授	禁牧政策はどこへ向かうのか
12:00-13:30	昼 食		

## 第一分科会場報告内容

11月3日（日）

分野：自然科学（一）			
場所：寧夏大学国際交流センター 3階第1会議室 通訳：崔沫舒、劉巧迎			
時 間	報告者	所属/職名	報告テーマ
14:00-14:30	李隴堂	寧夏大学 教授	賀蘭山の生態環境保全と 持続可能利用に関する研究 —国立公園建設の視点から
14:30-15:00	杜靈通	寧夏大学 副教授	Effects of Artificial Vegetation Reconstruction on Regional Ecosystem Evapotranspiration in Desert Steppe
15:00-15:30	劉学武	寧夏大学 副研究員	合併新村における脆弱性形成の メカニズムに関する研究
15:30-16:00	許坤	島根大学 大学院生	エチオピア北部における反芻家畜の 舎飼い移行を目的とした 飼料源の栄養価査定
17:00-17:15	セミナー総括（第3分科会場）		

## 第二分科会場報告内容

11月3日(日)

分野：自然科学(二)			
場所：寧夏大学国際交流センター3階第4会議室			
通訳：必要に応じて各自			
時間	報告者	所属/職名	報告テーマ
14:00-14:30	史可人	寧夏大学 副教授	Creep and Microstructures of Semi-Solid Metal Alloys
14:30-15:00	馬薇	寧夏大学 講師	Reducing Anomalous Hysteresis in Perovskite Solar Cells by Suppressing Interfacial Ferroelectric Order
15:00-15:30	陳卓	寧夏大学 大学院生	A Facile Strategy to Prepare (N,NLP) tri-doped Echinus like Porous Carbon Spheres as Advanced Anode for Lithium Ion Batteries
15:30-16:00	劉真真	寧夏大学 大学院生	Na <sub>0.71</sub> CoO <sub>2</sub> Promoted Sodium Uptake via Faradaic Reaction for Highly Efficient Capacitive Deionization
16:00-16:30	張沢豪	寧夏大学 大学院生	Engineering of Bowl-like Si@rGo Architecture for improved Lithium-ion Battery via Synergistic Effect
16:30-17:00	席文	寧夏大学 大学院生	Pseudo-capacitive Deionization Behavior of CuAl-mixed Metal Oxides
17:00-17:15	セミナー総括(第3分科会場)		

## 第三分科会場報告内容

11月3日（日）

分野：社会科学			
場所：寧夏大学国際共同研究所 4階報告庁 通訳：王穎、張玲、韓芳			
時 間	報告者	所属/職名	報告テーマ
14:00-14:30	張前進	寧夏大学 副研究員	寧夏の対外開放通路建設に関する研究
14:30-15:00	伊藤勝久	島根大学 教授	過疎地域活性化と地域おこし協力隊の意識 —島根県の事例の分析—
15:00-15:30	周沢超	寧夏行政学院 教授	生態文明と中国政府の方案
15:30-16:00	関耕平	島根大学 准教授	日本における環境再生の地域づくりに向けて： 公害被害救済から環境再生への展開
16:00-16:30	王秀琴	固原行政学院 教授	固原市における習近平の生態文明思想の実践
16:30-17:00	李婉	島根大学 大学院生	中国における大学生の環境意識の考察 —西部地域三大学の意識調査からみた 森林環境教育への示唆—
17:00-17:15	セミナー総括（第3分科会場）		

## 第四分科会場報告内容

11月3日（日）

分野：人文科学			
場所：寧夏大学国際共同研究所 3階会議室 通訳：李玲			
時 間	報告者	所属/職名	報告テーマ
14:00-14:30	王鋒	寧夏大学 教授	The Status, Characteristics and Challenges of Higher Education in Iran
14:30-15:00	高志軍	寧夏大学 教授	情報化技術の支持下での 視覚高効率読書の応用に関する研究
15:00-15:30	劉倩楠	寧夏大学新華学院 講師	日本における「和食回帰」の 動きについての一考察
15:30-16:00	田潤潤	中央民族大学 大学院生	夫婦間におけるマイナスの 言語表現についての日中対照研究 —テレビドラマを研究対象として
16:00-16:30	藏志勇	寧夏大学 副教授	改革開放以来の中国における 脱貧困事業に関する実証研究
17:00-17:15	セミナー総括（第3分科会場）		

### I-3 中日環境法律与政策新進展研討会で関副所長が報告

2019年8月20日に西安の西北大学にて行われた中日環境法律与政策新進展研討会において、国際共同研究所から関副所長が参加し、「日本における公害被害救済の現状と環境再生政策への転換」という題で研究報告した。この研討会は環境法を専門とする日中双方の専門家が集うもので、今回の参加は、龍谷大学・北川秀樹先生によるお声がけと支援によって参加が実現したものである。

関副所長の報告に対しても、また全体討論においても活発に議論が展開され、中国における環境法・環境政策の最新動向などを学ぶ機会となった。

また、翌日には、西北農林科技大学農業経済管理学院・閻振宇先生のご案内のもと、西北農林科技大学の関連施設を見学し、今後の国際共同研究についても議論することができた。

貴重な機会を与えてくださった龍谷大学・北川先生ならびに調査見学をコーディネートいただいた西北農林科技大学閻振宇先生に心より感謝申し上げる。



### I-4 一戸副所長が西北農林科技大学を訪問

2019年11月3日に開催された第17回日中国際学術セミナー後、一戸副所長は研究室の中国人留学生（許坤君）を帯同して西北農林科技大学を訪問した。

以前から交流している西北農林科技大学動物科技学院の陳玉林教授が副総長に就任したため、その表敬と研究交流が今回の訪問目的であった。陳教授は中国における小型反芻家畜（ヒツジ、ヤギ）研究の総括者であり、多くの人材育成と研究成果をあげている碩学である。また今回、面談した陳研究室の楊雨鑫副教授も若手ながら多くの論文が海外の一流雑誌に掲載されており、大変優秀な研究者である。陳教授は、前日にロシア出張から戻ったばかりで、来客対応と会議で多忙であったが、快く面談いただけた。

西北農林科技大学とは寧夏が誇る在来家畜「灘羊」をキーワードとして交流を続けている。科技大学が現在行っている研究内容は栄養改善に関する基礎的分野をはるかに超越しており、ゲノム編集の手法を用いた生産成績向上のための研究に着手している。目下のところ、①灘羊脂尾に蓄えられる脂肪を筋肉内に分配させる（いわゆるサシ）技術、②単子の灘羊から最大3頭の子ヒツジを生産させる繁殖技術、③年2回分娩技術の確立と普及、④舎飼い群飼に対応した無角雄の改良、⑤子ヒツジの出生時体重を増加させる飼養技術、⑥灘羊の毛色改良技術および⑦科技大主

体で灘羊飼養標準の早期作成・出版に取り組んでいるとの説明を受けた。楊副教授からの論文リストによると、①、②、④、⑥については実験成功の報告が論文として既に掲載されており、成績安定の技術が残された課題とのことだった。

西北農林科技大の羊研究グループを日本に招き、日中国際學術セミナーはもとより日本緬羊研究会、日本畜産学会、家畜栄養生理研究会、日本分子生物学会において研究成果口頭発表の機会を設ける価値があると感じた。

陳教授は副総長の重責の傍ら、博士課程学生の指導も継続しており、さらに国際交流関係の副総長も現在兼任されている。今回の訪問で陳教授は、「銀川と楊凌、それほど遠いとは思わないので寧夏に来た際は科技大も訪問していただきたい。島根大学が西北農林科技大実験農場で共同研究ができる様に検討したい。自分は国際交流担当も兼ねているので、近い将来、島根大学を訪問したい」と提案があった。(許坤君通訳)。



西北農林科技大学の陳先生、楊先生と面会



西北農林科技大学敷設の灘羊飼養農場



黒い毛色の灘羊

## Ⅱ 日中学術共同調査と共同研究等の成果

### Ⅱ－１ 研究費の獲得

#### ○科研費

- ・ 関耕平「福島原発被災地における帰還住民の生活再建と復興基金制度の意義に関する研究」, 基盤研究C (研究代表者: 除本理史), 2017~2019年度, 70万円, 研究分担者

#### ○その他外部資金

- ・ 伊藤勝久「島根県「水と緑の森づくり」アンケート調査に関する研究」共同研究, 島根県, 22.4万円, 2019年度
- ・ 一戸俊義 砂漠化対処に向けた次世代型「持続可能な土地管理 (SLM)」フレームワークの開発 受託研究, 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) 108万円, 2019年度
- ・ 一戸俊義 鳥取大学乾燥地研究センター共同研究経費 (C)「エチオピア放牧牛の代謝エネルギー充足率の評価」, 23.4万円, 2019年度

### Ⅱ－２ 著書・論文等

#### ○伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部教授, 島根大学・寧夏大学国際共同研究所所長)

##### 【論文】

伊藤勝久「森林所有・経営システムの大転換 ―中小森林所有者による森林経営の危機と森林経営管理法の意味―」,しまね農政研, 389号, pp.2-9, 2019年7月

##### 【口頭報告】

伊藤勝久「森林経営の複線化 ―多部門複合生産による足腰の強い経営追及―」(応用森林学会70周年記念公開講演会「森林経営・森林管理の現在と未来」), 第70回応用森林学会, 2019年9月28-29日, 防長苑, 山口市

伊藤勝久・雨宮将貴「過疎地域活性化と地域おこし協力隊の意識 ―島根県の事例の分析―」, 第17回日中国際学術セミナー, 2019年11月3日, 寧夏大学, 銀川市

李婉・伊藤勝久「中国における大学生の環境意識の分析 ―中国西北部の3大学における調査結果から―」, 林業経済学会 2019年秋季大会, 2019年11月22日~25日, 東京農工大学, 府中市

久城隆敏・伊藤勝久「新たな森林管理システムに関する考察 ―鳥取県日南町森林組合の「山林意向調査結果報告書」の分析―」, 林業経済学会 2019年秋季大会, 2019年11月22日~25日, 東京農工大学, 府中市

##### 【その他】

伊藤勝久 書評「複合林産型」でつくる国産材ビジネスの新潮流 ―川上・川下の新たな連携システムとは―, 林業技術, 921号, pp.28-29 2018年12月

#### ○一戸俊義 (島根大学生物資源科学部教授, 島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長)

##### 【論文】

Wuchen Du, Fujiang Hou, Atsushi Tsunekawa, Nobuyuki Kobayashi, Toshiyoshi Ichinohe and Fei Peng. Effects of the diet inclusion of common vetch hay versus alfalfa hay on the



body weight gain, nitrogen utilization efficiency, energy balance, and enteric methane emissions of crossbred Simmental cattle. *Animals*, 9, 983 (online publication). 2019. November. doi:10.3390/ani9110983

Nobuyuki Kobayashi, Fujiang Hou, Atsushi Tsunekawa, Xianjiang Chen, Tianhai Yan and Toshiyoshi Ichinohe. Effects of feeding level of alfalfa hay on nitrogen utilization for 1-kg daily gain of crossbred Simmental male calves. *Grassland Science* (in press). DOI: 10.1111/grs.12273

Shigdaf Mekuriaw, Atsushi Tsunekawa, Toshiyoshi Ichinohe, Firew Tegegne, Nigussie Haregeweyn, Nobuyuki Kobayashi, Asaminew Tassew, Yeshambel Mekuriaw, Misganaw Walie, Mitsuru Tsubo and Toshiya Okuro. Mitigating the anti-nutritional effect of polyphenols on in vitro digestibility and fermentation characteristics of browse species in north western Ethiopia. *Tropical Animal health and Production* (in press). <https://doi.org/10.1007/s11250-019-02126-3>

Wuchen Du, Fujiang Hou, Atsushi Tsunekawa, Nobuyuki Kobayashi, Fei Peng and Toshiyoshi Ichinohe. Substitution of leguminous forage for oat hay improves nitrogen utilization efficiency of crossbred Simmental calves. *Journal of Animal Physiology and Animal Nutrition* (in press). DOI: 10.1111/jpn.13288

#### 【口頭報告】

許坤・一戸俊義. エチオピア北部における反芻家畜の舎飼い移行を目的とした飼料源の栄養価査定. 第17回日中国際学術セミナー. 2019年11月3日. 銀川市.

#### ○関耕平（島根大学法文学部准教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長）

##### 【著書】

八木信一・関耕平『地域から考える環境と経済：アクティブな環境経済学入門』，有斐閣，2019年3月.

関耕平「8-21 地方公共団体における環境政策の役割」，環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』所収，丸善出版，2018年5月.

##### 【論文】

関耕平「離島における地域医療の提供とナショナル・ミニマム保障：公立久米島病院の事例を中心に」門野圭司編著『生活を支える社会のしくみを考える：現代日本のナショナル・ミニマム保障』日本経済評論社，pp. 69-97，2019年

松江市史編集委員会編『松江市史 史料編10 近現代Ⅱ』（（1）松江市の財政統計（pp. 2-29），資料解説（1）松江市の財政統計（pp. 81-83））2019年

関耕平「地方圏および農山村地域における貧困をどうとらえるか：開発主義国家解体の観点から」唯物論研究協会編『貧困の＜隠され方＞：不可視化の力学を読む（唯物論研究年誌第24号）』大月書店，pp. 48-70（査読有），2019年

関耕平「日米FTA／TPPの下で地域の展望をどう開くかーグローバル時代の持続可能な農山村づくりに向けて」『しまね農政研』390号（2019年9月号），pp. 33-40，2019年

関耕平ほか「座談会 地域経済の再生を考える：「自治体戦略2040構想」との対決軸」『経済』  
295号（2020年4月号），pp.14-46，2020年

【口頭報告】

関耕平「公害被害救済から環境再生への展開と課題—イタイイタイ病全面解決の事例を中心に」日本環境学会（横浜国立大学 2019年6月）

関耕平「日本における公害被害救済の現状と環境再生政策への転換」中日環境法律与政策新進展研討会（2019年8月 西北大学 西安）

関耕平「原発災害からの環境被害回復と復興に向けた自治体財政運営の課題—南相馬市における「参加型予算」の実態と可能性を中心に」環境経済・政策学会（福島大学 2019年9月）

関耕平「離島における地域医療の提供とナショナル・ミニマム保障」日本財政学会（横浜国立大学 2019年10月）

関耕平「多様な地域の発展を支える笠岡市財政へ：真の「健全財政」運営に向けた課題と提案」市民向け講演（笠岡市公民館、2020年3月）

○保母武彦（島根大学名誉教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所顧問）

【論文】

保母武彦「海洋プラスチックごみと国・自治体」、『環境と公害』第49巻1号，2019年7月

保母武彦「自治体ゴミ政策が未来を拓く」、『地方議会人』第49巻12号，2019年5月

保母武彦，書評；寺西俊一他編著『農家が消える』，雑誌『経済』No.284，2019年5月

【口頭報告】

保母武彦，「『住民の福祉の増進』を全うする“地域づくり”への展望」，全国唯物論研究協会主催，主題「地方は何を奪われてきたのか」シンポジウム，於；島根大学，2019年10月

保母武彦「主題報告；SDGsを牽引する中国の『生態文明』に学ぶ」，第17回日中国際学術セミナー，於；寧夏大学，2019年11月

保母武彦，「農山村の内発的発展と地方自治の課題」，自然資源経済論Ⅳセミナー，於；一橋大学，2019年12月

○田中奈緒美（島根大学・寧夏大学国際共同研究所研究員）

【口頭報告】

田中奈緒美「話題転換時によく用いられる接続詞の使い分けについて—デとジャを中心に—」，日本語教育誤用例研究会，大阪，2019年11月

○汪発武（島根大学総合理工学部教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所兼任研究員）

【論文】

Li R, Wang FW, Zhang S (2020) Controlling role of Ta-d pumice on the coseismic landslides triggered by 2018 Hokkaido Eastern Iburi Earthquake. Landslides, 1 -18.

Zhang S, Wang FW (2019) Three-dimensional seismic slope stability assessment with the application of Scoops 3 D and GIS: a case study in Atsuma, Hokkaido. Geoenvironmental

Disasters 6 (1), 9.

Nam K, Wang FW (2019) The performance of using an autoencoder for prediction and susceptibility assessment of landslides: A case study on landslides triggered by the 2018 Hokkaido Eastern Iburi earthquake. *Geoenvironmental Disasters* 6 (1), 19.

Dhungana P, Wang FW (2019) The relationship among the premonitory factors of landslide dam failure caused by seepage: an experimental study. *Geoenvironmental Disasters* 6 (1), 17.

○桑原智之（島根大学生物資源科学部准教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所兼任研究員）

【口頭報告】

Ronald KATONGOLE, Yoshinari SUZUKI, Keiko YAMAGUCHI, Tomoyuki KUWABARA  
“Trace Element Concentrations in Tissues of *Lateolabrax japonicus* Collected at Lakes Shinji and Nakaumi, Shimane Prefecture – Japan” , Water and Environment Technology Conference 2019 (WET2019), Suita city, 13th -14th July 2019

栗原優一，清重直也，中本健二，桑原智之，山本民次，須崎萌実，小倉加代子「中海浚渫窪地環境修復事業での石炭灰造粒物（Hiビーズ）による覆砂工事の施工について」，令和元年度土木学会全国大会，高松市，2019年9月3～5日

○伊藤康宏（島根大学生物資源科学部教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所兼任研究員）

【著書】

伊藤康宏、「解説」、松江市史編集委員会編『松江市史史料編10近現代Ⅱ』、松江市、2019年7月、ISBN：978-4-904911-48-8。p.23-25,33-38,47-51,61-66,73-74

伊藤康宏、「漁業場区と水産業振興」、「明治漁業法と漁業組合」「松江商業会議所と商工業」「戦時下の統制経済」「戦後の経済改革と松江市産業構造」「水産業の民主化と再編」「商工業の変貌」松江市史編集委員会編、『松江市史通史編近現代』、松江市、ISBN：978-4-904911-55-6、2020年3月、p.70-79, p.260-269, p.269-281, p.485-491, p.491-499, p.622-632, p.633-642

【論文】

彭璋・伊藤康宏「20世紀前期の中国「関東州」水産業の形成と展開」『地域漁業研究』59（1）、地域漁業学会、105-112、2019年7月

【口頭報告】

彭璋・伊藤康宏「1920～30年代における中国「関東州」水産業の変容」2019年度漁業経済学会大会、2019年6月30日、品川区

伊藤康宏「近代東アジアの水産秩序の形成と再編」2019年度社会経済史学会中国四国部会大会、2019年12月1日、松江

○赤沢克洋（島根大学生物資源科学部准教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所兼任研究員）

【論文】

高田晋史・南谷菜々子・古安理英子・赤沢克洋、「地域づくりの担い手育成におけるロールプレイングゲームの有効性」『農林業問題研究』55（3）、地域農林経済学会、159-166、2019年9月

赤沢克洋・古安理英子・尾崎陽祐、「滞在時間の印象の提供に関する温泉地宿泊施設の戦略」『地域生活学研究』10、地域生活学研究会、13-21、2019年9月。

古安理英子・赤沢克洋、「ベスト・ワースト・スケーリングによる温泉地への期待に関する定量分析－玉造温泉宿泊者を対象として－」『温泉地域研究』33、日本温泉地域学会、25-36、2019年9月

○保永展利（島根大学生物資源科学部講師，島根大学・寧夏大学国際共同研究所兼任研究員）

【著書】

保永展利「(第4章 現代松江市域のなりたち 第2節 地域産業の再編4) 平成の広域合併前後の都市部と農漁村部の就業環境」、松江市史編集委員会編『松江市史 通史編近現代』、松江市、2020年3月、643-654。 ISBN 978-4-904911-55-6

【論文】

Yasunaga N, Classification of collective actions for rural community vitalization in Chugoku Mountainous region, Japan: applying multiple correspondence analysis, *Asia-Pacific Journal of Regional Science*, Springer, 2020-01-21, DOI: 10.1007/s41685-020-00145-9

永野萌・保永展利\*「地域酒造の戦略的価値の特徴に関する考察－島根県の清酒製造を対象として－ (Differences in Values Assigned to Management Strategies of Local Sake Brewing: Applying AHP to the Case of Refined Sake Production in Shimane Prefecture)」『地域活性研究』12、地域活性学会、2020年3月（3月末発行予定、該当ページは未定）

\*corresponding author

保永展利、「中山間地域のコメづくりと地域づくり」『農業と経済』85（11）、昭和堂、55-62、2019年11月。

【口頭報告】

保永展利「域学連携による都市農村交流活動の相互作用－中山間地域を対象として－」、地域活性学会 第11回研究大会、2019年9月15日、長崎県大村市（大村市コミュニティーセンター）。  
永野萌・保永展利「地域酒造の戦略的価値の特徴に関する考察：島根県の清酒製造を対象として」、地域活性学会 第11回研究大会、2019年9月15日、長崎県大村市（大村市コミュニティーセンター）。

○谷口憲治（島根大学名誉教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）

【論文】

谷口憲治「新たなグローバル化下における日本農業の展開方向－TPP・日EU EPA・日米TAGを中心に－」『しまね農政研NOSEIKEN』島根農政研誌、390号、pp.24-32、2019年9月

谷口憲治「農業問題と農業団体」『松江市史－通史編5 近現代－』2020年3月

【口頭報告】

谷口憲治「日本における農村振興の特徴」南開大学日本農業センター設立3周年記念日中郷村振比較研究会、南開大学（中国・天津市）2019年12月18日

## Ⅲ 2019年度研究所活動の記録

### Ⅲ－1 研究交流活動

#### Ⅲ－1－1 寧夏農林科学院の研究者が島根県を訪問

2019年9月25日（水）、寧夏農林科学院の研究者3名が島根県を訪問し、奥出雲町の水田農業の伝統的景観および水田農家に視察に訪れ、環境保全型農業の生産技術などを学んだ。研究所の寧夏駐在員を通じて視察の要望があったもので、伊藤所長が一行を迎えた。

今回訪問した、馮偉東氏（寧夏農林科学院農作物研究所栽培室・水稻栽培技術研究員）、趙健氏（寧夏農林科学院農作物研究所弁公室・水稻栽培技術主任副研究員）、強盛氏（寧夏科学技術協会弁公室・トウモロコシ栽培主任）および凌錫喆（寧夏食品安全協会部長・秘書長）の3名はいずれも穀物生産の専門家で、日本のコメ作りの歴史や技術を知るために仁多米で有名な奥出雲町を視察した。とくに馮氏は20年前に佐賀県の農業技術センターでの長期研修の経験もあり、日本の水田農業に強い関心を持っておられた。

25日朝松江を出発し、奥出雲町ではたたら製鉄と水田との関係を知るために「絲原記念館」を見学し、また日本農業遺産に指定されている伝統的棚田地区の景観を視察した。一行は、たたら製鉄の技術およびその原材料である砂鉄採取のために山地を切り崩し、その残土が急峻な地形を埋め立て中国山地の脊梁部に広大な水田が形成されることになった歴史を学んだ。

午後からは「環境保全型農業推進ネットワーク 榎名田姫」の代表である安部備造氏を訪問し、環境保全型農業の意義、技術的課題などを学んだ。安部氏は、「紙マルチ農法」を実践しておられ、その技術に話題が集中した。これは鳥取大学と三菱農機で開発された再生紙を介して田植えを行う方法で、水稻成長初期の雑草繁茂を抑えるものである。

一行は環境保全型農業の歴史と現在の様々な技術に強い関心を示していた。



### Ⅲ－１－２ 寧夏大学経済管理学院学生の短期研修受け入れ

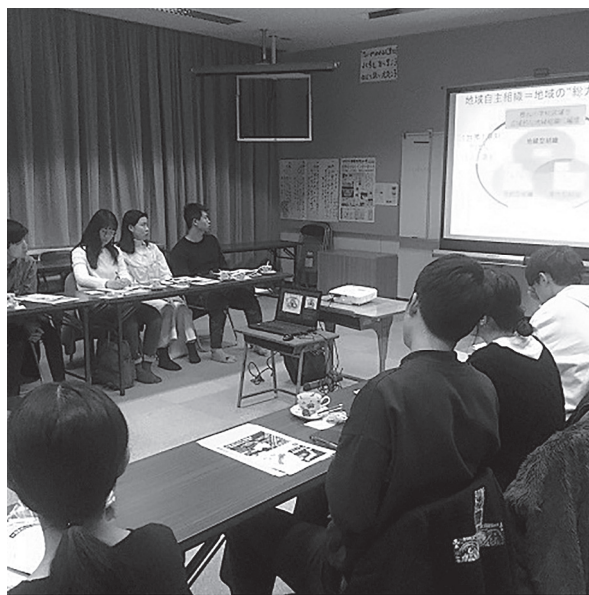
2019年10月末から1月中旬までの約3か月にわたり、寧夏大学経済管理学院の修士の学生2名（徐浩さん、罗旖璇さん）が、日本での短期研修を行った。二人の研究テーマは環境と経済にかかわる指標についての日中比較である。

受入れは共同研究所日本側副所長・関研究室が行い、普段はゼミに参加したほか、分室での資料調査などを行った。また、2度にわたって農山村での調査を行った。

雲南省の小規模多機能自治の取り組みについて調査を行ったほか、石見神楽の鑑賞やお餅づくりなども楽しむことができた。また1月には吉田ふるさと村や仁多たい肥センターへ見学に行き、六次産業化や耕畜連携や循環型農業についての調査を行った。今後もこうした若手研究者を中心に国際学術交流を強化していく所存である。



神楽鑑賞の様子



小規模多機能自治に関するレクチャ



仁多たい肥センターでの調査



### Ⅲ－１－３ 研究所運営に関する協議等

#### 1) 運営委員会

日 時：2019年11月2日 16:30～17:30

場 所：寧夏大学内研究所会議室

参加者：伊藤勝久、一戸俊義、関耕平、郭迎麗、蔵志勇、李楊

協議内容：

①15周年事業及び第17回セミナーのプログラムについて報告

②研究所としての将来方向のフリーディスカッション

・体制 研究所+西部ネットワークを核にして、オール島根大学、オール寧夏大学でテーマごとに個別プロジェクトを作り研究を展開できるような体制づくりを目指す。

・資金確保

・テーマ設定 社会的ニーズ、解決すべきテーマは何か。

農村の人口減少・高齢化問題、将来の適切な農業の方法、現代農業・節水などの新方法  
…曹兵科技処処長も同意。

→科研申請、寧夏科技厅への申請を目指す。

その他生態保護・新技術新素材、エネルギー科学、情報、民族などの課題も検討。

③学生交流

島根大学に学生（日本語学科）を3+1プログラムで送る計画。

島根大学でどの程度制度的に固まっているかの確認必要。

④北方民族大学との交流拡大

2020セミナーからセミナー参加を案内する。

⑤2020年度セミナーのテーマ設定もそろそろ始める必要がある。

### Ⅲ－２ 2019年度その他の交流記録

#### Ⅲ－２－１ 伊藤所長らが北方民族大学を訪問

2019年11月2日午後、研究所の日本側メンバーが北方民族大学を訪問した。

今回、北方民族大学国際合作交流処を初めて公式に訪問し、今後の交流について話し合いを行った。

北方民族大学側は白華龍 国際合作交流処処長、苗婷 同副所長、郭麗 日本語学科副院長（通訳兼）、鐘衛軍 音楽舞蹈学院教授の4名で、このうち鐘衛軍教授は本年9月歌舞団とともに島根のNPOの招きで来日し公演を行っている。

日本側は伊藤勝久 所長、一戸俊義 副所長、関耕平 副所長、郭迎麗 駐在員代理（通訳兼）、許坤（一戸研究室院生）の5名であった。

まず相互に大学の紹介をした。北方民族大学は1984年に北方民族委員会が設置し、開学。民族自治区にある大学は北方民族大学だけで、これが大きな特徴である。一部の分野においては博士課程をもっており学位授与も可能で、大学として特徴的な分野は、金融、IT、工学、芸術、音楽などである。また外国語学院の日本語学科、民族学科では日本に強い関心があり、日本と友好関係を結びたいとの希望があり、島根には2、3回民族歌舞団を派遣している。今年もNPOの招き

で、音楽舞踏学院の副院長を団長に8名が来日した。

北方民族大学の日本語学科は毎年60名の学生がおり、日本への関心も高く留学の希望もあるが、具体的な方法で逡巡しているようである。教員も同様に日本で日本語能力を高めたいなどの希望が強いということであった。

研究所としては、現在大学間交流が未締結でも、研究所を介して関心分野の先生を紹介することは出来ると伝えた。北方民族大学は、島根大学との学术交流、学生交流について今後積極的に進めたいとのことであった。11月25～26日に副学長が島根大学を訪問されるとのことで、その希望が一步実現に向かえばと期待している。

学内案内では大学キャンパス中央にある10階建て本部建物展望台からキャンパス全体を見学した。広大なキャンパスの中に教学エリア、居住エリアおよび緑豊かな森林・庭園が一望できた。



協議の様子



北方民族大学本部棟

### Ⅲ－２－２ 研究所設立15周年記念展示会を開催

2019年10月1日から11日間、島根大学附属図書館1階展示室にて、島根大学・寧夏大学国際共同研究所設立15周年記念展示会を開催した。

展示会では普段見ることのできない研究所の貴重な資料や写真、ポスター等の展示に加え、寧夏大学から寄贈された掛け軸なども展示されており、彩を添えた。

短い開催期間ではあったが、学生や研究者、一般の方等多くの方が来場し、研究所及び島根大



学と寧夏大学の長年にわたる歴史に触れてる機会となった。

今後も研究所は継続的に様々な情報を発信し続ける所存である。



### Ⅲ－２－３ 寧夏回族自治区訪問団が島根大学を訪問

中国・寧夏回族自治区教育厅学生工作処の楊 文剛 処長、同庁弁公室の夏 鑫 主任、寧夏大学共産党委員會の王 宏偉 副書記、寧夏医科大学頭蓋脳疾病重点實驗室の王 峰 主任、吳忠市教育局の柳 佳偉 副局長及び固原市教育局の馬 鳳賢 局長の6名が2019年12月9日、10日の2日間、島根大学を訪問した。

この度の大学訪問は、NPO法人日本寧夏友好交流協會を通じて実現したもので、日本の小・中学校の教育発展状況の視察と島根大学と寧夏自治区内の大学との更なる交流についての協議を行うことを目的に、一行は島根大学教育学部附属学園の視察や出口グローバル化推進担当副学長の表敬訪問を行った。

表敬訪問には当研究所の一戸副所長も出席し、本年で研究所は設立15周年を迎えたことについて触れ、今後更なる交流の発展を希望する旨を一行に伝えた。また、これまで研究所では教育分野における交流の機会が乏しかったため、今後は力を入れていきたいと述べた。

寧夏大学の王 宏偉 副書記からは、島根大学と寧夏大学は學術協定を締結しているが、実際の学生交流は日本語学科の学生に限られていることから、今後は語学以外の經濟や文化等あらゆる分野において、学生・研究者間の交流が促進されていくことを望むと話があった。また、研究所

を交流の場として活用し、幅広く相互交流を行うことで日中の青少年の育成に役立てたいという期待も寄せられた。

今後も研究所では研究活動のみならず、学生の相互派遣などの交流事業への支援も継続的にを行い、島根大学と寧夏地区の大学との交流が一層活発なものになるよう努める所存である。



#### Ⅲ－２－４ NPO法人日本寧夏友好交流協会新出事務局長が寧夏大学外国語学院を訪問

2019年10月19日、NPO法人日本寧夏友好交流協会（以下NPO）の新出雄彦事務局長が寧夏大学外国語学院を訪問し、馬軍副院長、趙曉佳副院長、崔沫舒東語学部主任、外事弁アジア処の馬冀忠処長と通訳の曾明々さんとこれまでの日本語学科学生の夏季研修と来年学生の夏季研修について意見交換を行った。

寧夏大学の馬副院長は、NPOが20年もの長い間、継続的に実施している夏期研修事業を高く評価し、感謝の意を述べた。また、趙副院長は日本語学科の発展には島根県との交流事業が必須であり、今後もNPOの継続的な支援をお願いし、更なる交流の場を広げたいとも述べた。

新出事務局長からは、寧夏大学日本語学科生を島根県内の企業で実習を行うことについて提案があり、2020年夏期に予定している寧夏大学日本語学科生の訪問時における交流計画について具体的な内容を検討した。2020年の夏休みを利用して15～16名の学生がNPOの夏期研修に参加する予定であり、新出事務局長は寧夏大学の支援を受け、今後も継続して研修事業を行っていききたいと話した。

#### Ⅲ－２－５ 寧夏大学・北方民族大学訪問団が島根県を訪問

特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会の尽力により、2019年8月下旬に寧夏大学日本語学科学生と北方民族大学音楽舞蹈学院学生が島根県を訪問し、各種交流活動を行った。

日本寧夏友好交流協会は、文化交流の一環として2015年に島根県から芸能団を派遣し、銀川市において寧夏大学と北方民族大学で交流公演を実施した。そして昨年の島根県・寧夏自治区との交流25周年を契機とし、北方民族大学の学



生らを鳥根県に招待し交流を行うため働きかけ、今回招致が実現した。

8月31日に出雲かんべの里野外ステージで北方民族大学音楽舞踊学院（教師3名、学生5名）と寧夏大学日本語学科学生（11名）、鳥根県立大学留学生、松江民謡連および松江市民劇場の共演による公開公演（タイ族舞踊、琵琶演奏、ウイグル族舞踊、クラリネット演奏、ミャオ族舞踊、男性独唱、二胡演奏、二胡・琵琶合同演奏）が行われた。公演前日のリハーサル後、松江市の鳥根青少年館において寧夏大学・北方民族大学訪問団歓迎会が開催され、鳥根大学・寧夏大学国際共同研究所からは伊藤所長と一戸副所長が出席した。

歓迎会では、来賓として伊藤所長と松江市民観光振興部の宮廻次長が挨拶をした。寧夏大学訪問団は8月25日の到着からの感想、ホストファミリーへのお礼を日本語で述べ、出席したホストファミリーからは盛大な拍手が送られた。また、本番に先立ち、北方民族大学音楽舞踊学院学生と学院教授の伝統舞踊と独唱が披露された。歓迎会に出席した博士課程学生は、「(彼女たちの講演を鑑賞できることは)幸運な機会ですよ。彼女達はセミプロで、学院卒業後は寧夏歌舞団をはじめ、有名な舞踊団で活躍する能力を持っています。」と教えてくれた。

今後もこのような交流を通じて両国の交流が一層活発となることを期待している。



### Ⅲ－２－６ 寧夏大学で第一回寧夏大学生日本語スピーチコンテストを開催

2019年4月20日、寧夏大学外国語学院4階報告庁にて、寧夏大学外国語学院の主催による第一回寧夏大学生日本語スピーチコンテストが開催され、寧夏大学、北方民族大学、寧夏理工大学で日本語を学ぶ大学生12名が出場し、本研究所の田中研究員が審査員として参加した。

コンテストでは、寧夏大学外国語学院趙曉佳副学院長のあいさつに続き、12名の選手がテーマスピーチ及びその場で題目が発表される即席スピーチを披露した。今回のテーマスピーチは、「私とオリンピック精神－2020年東京・2022年北京」及び「中日青少年交流年－私の提言一」という2つのテーマから一つ選択するという形式で、選手たちは緊張しながらも、それぞれ堂々とした話しぶりで、聴衆たちは彼らのスピーチに聞き入っていた。コンテストの最後に、田中研究員が総評を行い、日本語のスピーチにおける注意点等について紹介した。

寧夏地域の大学で日本語を学ぶ学生は400名以上に及ぶが、これまで大学間の垣根を超えた交流はあまり行われてこなかった。このようなコンテストが行われることは、学生たちの学習意欲を刺激し、寧夏地域の日本語教育環境により影響を与えることだろう。



趙副学院長によるあいさつ



司会の様子



田中研究員による総評



授賞式

### Ⅲ－３ 留学生招致に係る活動

#### Ⅲ－３－１ 留学支援

日本留学希望者に対して、相談対応（留学方法に関する説明、資料の配付等）や派遣支援（指導教官とのマッチング、書類作成指導等）を行った。

### Ⅲ－４ 資料・情報の提供

#### Ⅲ－４－１ 翻訳、資料収集と提供

- ・日本側研究者からの必要・要望に応じて翻訳を行った。
- ・翻訳物一覧を研究所HPに掲載した。

【翻訳成果一覧ページ】

[http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/info/translation/translation\\_index.html](http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/info/translation/translation_index.html)

### Ⅲ－５ その他の活動等

#### Ⅲ－５－１ 寧夏大学外国語学院に対する支援

- ・講義の担当
- ・日本語コーナー等イベントへの参加

### Ⅲ－５－２ 研究所来訪実績

2019年度

月 日	訪 問 者
11月1日～4日	島根大学 荒瀬栄 理事 島根大学企画部 吉木茂 部長 島根大学国際交流センター 楊小平 特任講師 伊藤勝久 所長、一戸俊義 副所長、関耕平 副所長 島根大学留学生 李婉さん、許坤さん
11月1日～8日	保母武彦 顧問

## IV 研究所の組織

○2019年度の運営体制

役 職	日本側	中国側
顧 問	保 母 武 彦 (島根大学名誉教授、島根大学元副学長)	陳 育 寧 (前寧夏大学長)
所 長	伊 藤 勝 久 (島根大学生物資源科学部教授)	周 震 (寧夏大学教授)
副所長	一 戸 俊 義 (島根大学生物資源科学部教授)	蔵 志 勇 (寧夏大学副教授)
	関 耕 平 (島根大学法文学部准教授)	
研究員	田 中 奈 緒 美 ※現地駐在	王 鋒 (寧夏大学教授) 李 楊 (寧夏大学助教)

○兼任研究員

氏 名	所 属	研究分野
汪 発 武	総合理工学部	防災工学
桑原 智之	生物資源科学部	水環境保全学
米 康 充	生物資源科学部	森林測定学、森林リモートセンシング学
伊藤 康宏	生物資源科学部	水産史、水産経済学
井上 憲一	生物資源科学部	農業経済学
赤沢 克洋	生物資源科学部	資源管理学
保永 展利	生物資源科学部	農業経済学、地域経済学

○客員研究員

氏 名	所 属	研究分野
鄭 蔚	中国 南開大学日本研究院	農業経済学、金融学
周 建中	日本 東京成徳大学人文学部	生物環境科学、民族歴史文化、人口と教育問題
高橋 健太郎	日本 駒沢大学文学部地理学科	人文地理学


胡 霞	中国 中国人民大学经济学院	発展経済学、農業経済学
富野 暉一郎	日本 龍谷大学法学部	市民自治、調和型連動社会、地域環境政策
胡 勇	中国 北京農学院人文社会科学部	社会学、社会福祉学
張 偉	中国 北京工商大学经济学院	ミクロ金融、発展金融、中小企業融資、東アジア金融協力
大西 広	日本 慶應義塾大学経済学部	統計学、経済システム論、中国経済数量分析
氏川 恵次	日本 横浜国立大学大学院 国際社会科学研究科	経済政策・環境経済
谷口 憲治	日本 島根大学名誉教授	農業経済
劉 海濤	中国 大連東軟信息学院	農村金融
栗畑 恭介	日本 九州国際大学経営学部	農村社会と農業の持続可能性

## V 資料その他

### V-1 新聞記事等

■山陰中央新報 2019年10月11日掲載記事

**島根大と寧夏大  
「交流の歴史」30点**  
松江で共同研究成果展示



島根大と寧夏大の交流記録  
を見る学生

交流協定を結ぶ島根大と中国・寧夏大（銀川市）の共同研究成果や友好の証しの品などを集めた展示会が、松江市西川津町の同大付属図書館で開かれており、中国中心部に位置する寧夏回族自治区の地域情勢に関する研究報告など、20年以上続く交流の歴史を伝える約30点が学生の目を引いている。11日まで。

島根大の教授が農村開発の現地調査で自治区を訪れたのをきっかけに、両大は1997年、協定を締結。2004年には寧夏大のキャンパス内に共同研究所を

設け、留学生の受け入れが活発化した。

展示会では、都市部への出稼ぎに伴い自治区の伝統的価値観や生活様態が変化した様子をまとめた研究成果などを報告。両大の交流内容を記録した冊子や、島根大に贈られた掛け軸などの工芸品も並んだ。

生物資源科学部4年の中山智徳さん(左)は「農村の発展などさまざまな分野の研究報告があり、交流の重みを感じる」と話した。開館時間は午前8時半～午後9時半。11日は午後4時半まで。(佐々木一全)



## V-2 国際共同研究所ホームページ・トピックス

2019年度

日付	タイトル	カテゴリ
2020年2月25日	寧夏情報（202002）を掲載しました	情報の発信
2020年1月30日	寧夏大学経済管理学院からの短期研修受け入れ	人材育成
2020年1月10日	寧夏情報（202001）を掲載しました	情報の発信
2019年12月18日	寧夏情報（201912）を掲載しました	情報の発信
2019年12月11日	寧夏回族自治区訪問団が島根大学を訪問	その他
2019年11月29日	NPO法人日本寧夏友好交流協会 新出事務局長が寧夏大学外国語学院を訪問	その他
2019年11月29日	寧夏情報（201911）を掲載しました	情報の発信
2019年11月29日	寧夏情報（201910）を掲載しました	情報の発信
2019年11月11日	西北農林科技大学を訪問しました	その他
2019年11月11日	島根大学・寧夏大学国際共同研究所設立15周年式典が行われました	セミナー・イベント
2019年11月11日	第17回日中国際学術セミナーを開催しました	セミナー・イベント
2019年11月11日	北方民族大学訪問	その他
2019年11月1日	島根大学・寧夏大学国際共同研究所設立15周年記念展示会を開催しました	セミナー・イベント
2019年9月30日	寧夏農林科学院研究者が島根県を訪問	その他
2019年9月20日	島根大学・寧夏大学国際共同研究所設立15周年記念展示会の開催について	セミナー・イベント
2019年9月20日	寧夏情報（201909）を掲載しました	情報の発信
2019年9月20日	寧夏情報（201908）を掲載しました	情報の発信
2019年9月1日	寧夏大学・北方民族大学訪問団が島根県を訪問	その他
2019年8月26日	中日環境法律与政策新進展研討会で関副所長が報告	セミナー・イベント
2019年7月26日	第17回日中国際学術セミナー開催のお知らせ	セミナー・イベント
2019年7月11日	寧夏情報（201907）を掲載しました	情報の発信
2019年7月3日	島根大学・寧夏大学国際共同研究所第4次基本合意書（2019）を締結しました	その他
2019年6月17日	寧夏情報（201906）を掲載しました	情報の発信
2019年6月17日	寧夏点描『春の雨と義務植樹』を掲載しました	寧夏点描
2019年5月15日	寧夏情報（201905）を掲載しました	情報の発信
2019年5月10日	翻訳文献を追加しました（201905）	情報の発信
2019年5月8日	寧夏大学で第一回寧夏大学生日本語スピーチコンテストが行われました	セミナー・イベント
2019年5月8日	国際共同研究所の年報 第12号（2018年度版）を掲載しました	研究成果・刊行物
2019年4月4日	2018年度日中国際学術セミナーのプロシーディング集が完成しました	研究成果・刊行物
2019年4月1日	寧夏大学でJSPS北京研究連絡センター主催の留学説明会を行いました	人材育成
2019年4月1日	島根大学学生研修団が寧夏で研修を行いました	人材育成

※詳細については、島根大学・寧夏大学国際共同研究所のホームページをご覧ください。

<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/news/archives.html>

## V-3 事業計画

2019年度 島根大学・寧夏大学国際共同研究所事業計画

### 1. 共同研究・研究交流事業

#### (1) 日中共同学術研究の推進

- ① 格差・貧困と環境問題 (SDGs 1, 11)
- ② 太陽光をはじめとした再生可能エネルギーの開発 (SDGs 7)
- ③ 中国内陸部の家畜生産システムに関する研究 (SDGs 2, 12)
  - 1) 西北農林科技大学動物科学院・蘭州大学CPAST・鳥取大学乾地研と共同で「甘肅省におけるシンメンタール交雑牛の舎飼い生産システム」に関する研究の継続
  - 2) 寧夏大・西北農林科技大と共同で寧夏回族自治区中部乾燥帯での灘羊舎飼い生産システムの研究に着手 (2019年11月セミナー時に関連研究者と協議)
- ④ 新たな分野の共同研究開始に向けて
  - 1) 自然災害科学分野と寧夏大教員との共同研究の検討依頼 (総理工 汪發武教授) (SDGs 9)
  - 2) 西北農林科技大との耕畜連携に関する新規共同研究の展開 (閻振宇博士) (SDGs12)
  - 3) 県立大、鳥取大、鳥取環境大、山口大の中国における研究シーズの探索、マッチング可能性の発掘 (伊藤・一戸・関)
  - 4) 兼任・客員研究員を含めた新規共同研究分野 (SDGsに関連した共同研究の推進)
  - 5) 2019年度のさくらサイエンスに申請予定 (分野未決定)
- ⑤ 中国側研究者による国際比較研究 (日本中山間地域の調査研究等) の要望に対して積極的に受け入れ・支援を行う
- ⑥ 民間助成をはじめとした外部研究資金への申請と獲得

#### (2) 学術交流事業の実施

- ① 第17回日中国際学術セミナー (11月2-3日開催予定、於寧夏大学) に出席
- ② 日中国際学術セミナーの場を利用した共同研究・交流事業の推進

#### (3) 研究ネットワークの拡充

- ① 第17回日中国際学術セミナーの場を利用した共同研究・交流事業の推進
- ② 日中国際学術セミナー時に自然科学系・工学系との交流推進・研究CPの探査 (土木学院、農学院、資源環境学院)
- ③ 客員・兼任研究員の増員による研究分野の拡大

#### (4) 研究成果の発信

- ① 第17回セミナーのプロシーディング発行
- ② 中国研究に関する成果の公表 (論文、学会発表)

- ③ 保母武彦共編著『砂漠化する地球 - 中国西部からの報告 -』の出版（現在、翻訳中）  
（SDGs 1, 13, 15, 17）
- ④ Webによる紀要の発行を検討（中国側との協議を実施）

## 2. 国際的産学官連携事業の実施に向けて

寧夏回族自治区科技厅、JICA、JSPS、大使館、中日友好協会への働きかけを継続

## 3. 人材育成事業

- (1) 寧夏大学および周辺大学の留学希望者に対する情報提供と留学説明会の実施
- (2) 寧夏大土木学院および外国語学院からの交換留学生・日本語・日本文化研修生の確保  
（2～4名）
- (3) 修士課程留学生（または修士を希望する研究生）の獲得
- (4) 島根大学留学経験者によるイベント支援の継続
- (5) 若手研究者の育成
- (6) NPO日本寧夏友好協会による活動への協力

## 4. 教育・交流への協力

- (1) 島根県、松江市、NPO法人との情報交換・連携
- (2) 自治体間国際交流・人材育成研修への協力
- (3) 島根大学学生への情報提供、中国学生研修企画への協力、中国人民大学との交流事業の実施
- (4) 研究所設立15周年記念事業（於 寧夏大学）
  - ① NPO日本寧夏友好協会の参加と協力を検討
  - ② 銀川での切り絵展の開催（日中共同での実施）を検討

## 5. 研究所の運営

- (1) 各種委員会の開催
- (2) 研究所年報の発行（第13号、2019年度版）
- (3) 研究資料の配信
  - ① 情報提供（研究所HP記事作成、寧夏情報の提供、ニュースレターの発行（全学配布））
  - ② 県およびNPO（日本寧夏友好交流協会）等に対しての広報活動、情報提供による新たな共同研究・交流可能性の発掘
  - ③ 在中国日本国大使館等への訪問と情報交換
- (4) 文献翻訳・関連論文の提供

## V-4 第4次基本合意書



### 島根大学・寧夏大学国際共同研究所第4次基本合意書

2004年に設立された島根大学・寧夏大学国際共同研究所（以下、「研究所」という）は、時代状況に対応しながら発展し、早くも15周年を迎えようとしている。両校の科学研究の規模と分野は拡大し、学術交流、学生交流も盛んになってきた。本研究所の共同研究を通じて、経済、社会、環境の持続可能な発展様式等の分野において多くの成果が生まれた。また、人材育成面でも実績を上げ、大学間国際交流の新たな様式を築き、充実させてきた。今後は新たな研究分野への拡張が期待されている。

今後の両大学の学術交流、共同研究、さらに学生交流を一層強化し、諸業務を推進するために、島根大学・寧夏大学国際共同研究所第4次基本合意書（2019年度～2023年度）を取り交わす。

#### 一 研究課題

1. 持続可能な開発目標（SDGs）に関する両国の課題解決に関する学際的研究
2. 情報技術・新規素材開発・再生可能エネルギーなど科学技術の発展とそれらの実装による社会発展および環境保全に資する最先端技術の研究
3. 日中両国の条件不利地域における自然環境保全、定住条件整備および災害対策など地域的特色を生かした発展に関する人文社会・自然科学分野および人材育成に関する研究

#### 二 業務

1. 共同研究：両大学の研究者を中心とした国際的共同研究を一層促進するとともに、関連分野の客員研究員を充実する。
2. 社会貢献：喫緊の課題解決型プロジェクトを学際的に推進し、また研究成果を実際に地域で実践する実装化を進める。
3. 人材育成：両大学の教職員・学生に対して、相互研修や交換留学等を通じて、国際性の修得機会を提供する。
4. 学術交流：両大学の研究者交流を一層推進するとともに、定期的国際セミナー、加えて課題解決型ワークショップを開催する。
5. 成果普及：研究成果の普及と両大学の一層の理解促進のために、研究に資する資料を整備し、発信内容を質的に向上し、多様なメディアによる情報発信を行う。
6. 交流・研究の基盤整備：学術交流・学生交流を円滑に進めるための諸制度の改善を行い、共同研究を推進するための日中両国の外部研究資金確保に努める。
7. その他：両大学が共に必要と認める業務を行う。

三 研究所の組織および財務

研究所の組織および財務については「島根大学・寧夏大学国際共同研究所枠組み協議合意書」（2006年3月3日制定）および「島根大学・寧夏大学国際共同研究所管理規則」（2006年3月28日制定）に基づき、円滑な運営に努めるものとする。

四 合意書の発効

双方が署名するこの合意書は2019年3月11日から効力を生じるものとし、5年間有効とする。

この合意書は、等しい正文である日本語と中国語により各2通を作成し、相互に各1通を保管するものとする。

2019年 3 月 11 日

2019年 3 月 18 日

服部 泰直

島根大学 学長 服部泰直

何 建国

寧夏大学 校長 何 建国

---

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報 第13号 2019年度

2020年3月31日発行

発行者 島根大学・寧夏大学国際共同研究所  
(所長 伊藤勝久)

〒750021 中国寧夏銀川市西夏区賀蘭山西路寧夏大学A区  
TEL +86-951-206-1818

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学内  
TEL 0852-32-6547 (伊藤勝久)、32-9735 (国際交流課)

Homepage <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/>

---



